

## 令和6年度における学長表彰対象者

対象者	団体	人数	所属・職名等	選定理由
人事給与Webシステム導入プロジェクト (代表者:総務部人事課課長補佐 林 文武)	○	31	総務部人事課、情報推進課、医学部総務課等の職員	<p>本学では、神戸大学DX 推進基本方針のデジタル三原則(デジタルファースト、ワンスオンリー、コネクテッド・ワンストップ)を掲げ、DXの推進が検討されている。その中で、令和3年度に業務のDX化として、人事課から主要な業務システムである人事給与システムにWebシステムを追加導入する提案があり、Dプロジェクトの一環として導入が決まった。そして、令和4年度中の導入に向けて、令和4年7月に人事課のメンバーを中心としたプロジェクトチームが発足した。通常業務を行う中でプロジェクトを効率的かつ確実に進めていくために、役割ごとに7つのプロジェクトチーム(A全体調整、B年末調整、Cマイナンバー等、D個人情報→氏名申請、E給与明細、F共済適用→Hナビゲーション、G手当申請)を編成し、週1~2回のチームミーティングや月1回のチームリーダー会議、必要に応じて随時開催するチーム横断ミーティング、週1回のベンダーとの打合せを精力的に行い、令和5年8月までの1年間で延べ161回の会議等を行った。その結果、令和5年1月から全学でWeb給与明細・賞与明細、Web源泉徴収票を紙との併用で稼働させ、同年4月からは完全稼働した。また、同年8月から各種手当や給与振込口座、マイナンバーなど人事関係手続のWeb申請を並行稼働させ、同年10月からはそれらに加え年末調整のWeb申告も医学部を除く部署で本稼働させるとともに、同年9月には六甲台地区のワクチン接種のWeb予約も導入した。その間、大きなトラブルもなく、順調に各種機能を稼働させることが出来たのは、人事課のほぼ全てのメンバーが通常業務に加えて精力的に本プロジェクトに取り組んでくれた賜物である。特に、教職員が迷うことなく入力できるように設定したナビゲーション機能は、ベンダーからも様々なケースまで検討されており素晴らしいと称賛されている。Webシステムの稼働により、教職員、人事課、部局事務における業務時間が合わせて年間約4,160時間削減でき人件費で約1,300万円、用紙代等の物件費で約100万円の経費削減につながった。本プロジェクトは、学内における業務のDX化の先駆けとして、モデルケースとなるものである。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
システム情報学部(仮称)設置準備室 (代表者:システム情報学研究科長 臼井 英之)	○	23	システム情報学研究科教員11名 工学研究科事務部、研究推進部の職員12名	<p>デジタル情報分野は急速に発展し、AIやデータサイエンスなどのデジタル技術の活用による社会問題や環境問題の解決とともに、世の中の役に立つ新たな価値の創造が、あらゆる分野において強く求められている。</p> <p>これを受けて令和5年4月、文部科学省から「令和5年度大学・高専機能強化支援事業」の募集が行われた。この事業は、大学又は高等専門学校を設置者に対し、デジタル・グリーン等の成長分野の学部等の設置等に必要な資金に充てるための助成金を交付し、当該成長分野の学部等の設置を促進することを目的としているものである。神戸大学は、本事業の「高度情報専門人材育成の確保に向けた機能強化」支援に応募し、その「ハイレベル枠」に全国で7大学のうちの一つとして採択された。</p> <p>この高度情報人材育成の体制強化する取り組みの一環として、学部と大学院を一体的に運用できる枠組みである「システム情報学カレッジ(College of System Informatics, CSI)構想」を掲げ、システム情報学部新設に向け、限られた人員の中、システム情報学研究科教員と工学研究科および本部の事務職員の支援により部局内に設置準備室を設置し、そこが中心となって設置申請に係る膨大な準備作業に対応した。令和4年10月から開始した文科省との事前相談をはじめ、設置に係る様々な資料作成において、設置準備室の教員と事務職員が密な連携協力体制のもと一丸となり取り組んできた結果、無事に令和6年6月20日に文部科学省から設置を「可」とする判定の回答を受け取ることができた。このように、本設置準備室は、本学における高度情報人材育成の体制強化の肝となる「システム情報学部」の新設において、大学の発展に多大なる貢献をしている。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>

対象者	団体	人数	所属・職名等	選定理由
末次 健司		1	理学研究科 教授	<p>末次氏は、これまで一貫して「世界中の人々が想像すらしなかった動植物の生態を明らかにする」ことをモットーに研究を推進し、筆頭・責任著者として200編以上の原著論文を発表している。これまでに「若手A」や「さきがけ」、さらに「創発」(内定)などを獲得しており、資金獲得状況も良好である。</p> <p>特に近年は、日本の生物多様性の豊かさを活かし、様々な動植物の生態の解明に取り組んでいる。例えば、末次氏はナナフシが鳥に食べられても卵の一部が孵化し、分布を拡大することを明らかにした。この成果は、昆虫が鳥に食べられると死に至るという常識を覆すものであり、驚きをもって迎えられ、「あつまれ どうぶつの森」などでも紹介された。</p> <p>また、光合成をやめた植物においても、新属新種の植物を発見するなど、インパクトの高い成果を発表し続けている。日本からの新種新属の植物の発見は100年ぶりとなり、植物学者や植物愛好家に大きな衝撃を与えた。</p> <p>上記のように、末次氏は生命の不思議や生物多様性の重要性について広く社会に伝えていくことができる稀有な人材であり、NHK「ダーウィンが来た」や「日経サイエンス」、各種新聞の科学面で同氏の研究特集が組まれるなど、この一年間の取材対応は100件を超えている。末次氏は2018年10月にも学長表彰を受けているが、上述の成果は2023年以降に行われたものであり、社会に対する多大な貢献を行うことを通して本学の発展に寄与した。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
学部一般選抜における 入学手続の一部Web化 チーム (代表者:学務部学務課 課長補佐 泓 幹雄)	○	11	学務部学務課、 入試課、企画部 卒業生・基金課、 財務部経理調達 課等の職員	<p>本学の学部一般選抜における入試業務において、これまで「出願手続」については構築済みのWebシステムを用いて対応してきたが、合格後の「入学手続」については、前期日程合格者、後期日程合格者及び補欠合格者のうち入学を希望する約2,300人を対象に郵送による書面のやりとりで対応しており、受付期間中は学務部全体(各課・グループ)及び財務部の一部から複数の要員で人海戦術により書類の確認及び入学金の納付等の業務を長年行ってきた。</p> <p>令和4年度より、出願手続から入学手続までを一貫してWeb化することで、受験生(入学希望者)の利便性を高めるとともに、これまで紙媒体で行ってきた作業をデータ化し、業務工数を減らすことで、手続のペーパーレス化及び業務の効率化を促進することを目的として、入学手続のWeb化を検討するチームを編成した。</p> <p>本チームは関係各部署の職員が集まり、これらの目的を果たすべく、通常の業務に加え、合格者向けWebサイトの構築、入学手続システムの構築・運用についての検討を重ね、令和6年度入学生から本システムを稼働させ、入学手続を実施した。</p> <p>入学手続業務のWeb化が実現できたことにより、紙を一枚一枚人海戦術で確認する体制からデータを一括でチェックできる体制へと移行し、データ化に伴って、マークシートの読み取り処理が不要になるなど、手続き当日に生じている作業量(令和3年3月学務部実績:延べ642時間)を10分の1以下に削減することができた。</p> <p>また、郵送(書面)手続により、当日以外に生じていた業務説明会や会場設営などの各種業務についての業務量も削減することができた。</p> <p>併せて、これまで印刷物で配付していた「合格者へのお知らせ」及び「新入生の手引き」の冊子作成(計930千円)についてもWebサイトに資料を掲載することで、情報提供を迅速に行うことができ、また冊子の印刷費用も削減することができた。</p> <p>さらに、入学希望者やその保護者は、郵便物の配送状況(合格したが書類がまだ届かない/送付したが届いているかなど)を気にすることもなく、合格発表後、直ちにWeb上で手続が可能となるほか、書面手続において生じる記入漏れの有無を、画面上で確認できるようになり、手続に際しての利便性が向上し、これにより問い合わせが減少することで職員の業務負担も軽減することができた。</p> <p>加えて、入学料の納付画面では、Pay-easyまたはクレジットカード払いの選択を可能とし、同窓会費等の納付機会を提供する仕組みも構築したことにより、従来伸び悩んでいた同窓会等の加入率を大幅に促進(約5割から約8割(令和6年3月時点))することができた。</p> <p>上記のとおり、本チームは本学のDX推進を掲げ、本学のサービス充実と業務改善、並びにコスト削減に大きく貢献した。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>

令和6年度学長表彰（財務貢献者）一覧

No.	所属	職名	氏名	備考
1	先端バイオ工学研究センター	教授	蓮沼 誠久	
2	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	近藤 昭彦	
3	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	永田 真	
4	先端バイオ工学研究センター	准教授	石井 純	※
5	先端膜工学研究センター	教授	松山 秀人	
6	カーボンニュートラル推進本部	特命教授	長廣 剛	※
7	大学院医学研究科	教授	児玉 裕三	
8	大学院医学研究科	教授	内匠 透	
9	大学院科学技術イノベーション研究科	特命教授	水野 敬	
10	大学院医学研究科附属感染症センター	教授	森 康子	
11	大学院科学技術イノベーション研究科	特命教授	渡辺 恭良	
12	大学院医学研究科	教授	南 康博	
13	大学院工学研究科	教授	荻野 千秋	
14	大学院医学研究科	特命教授	的崎 尚	
15	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	白川 利朗	
16	大学院医学研究科	教授	古屋敷 智之	
17	大学院医学研究科附属感染症センター	教授	勝二 郁夫	
18	大学院農学研究科	教授	水谷 正治	
19	大学院科学技術イノベーション研究科	特命教授	内田 和久	
20	次世代光散乱イメージング科学研究センター	教授	的場 修	
21	大学院保健学研究科	教授	古和 久朋	
22	大学院医学研究科	特命教授	松本 理器	
23	大学院科学技術イノベーション研究科	准教授	三木 拓司	
24	大学院システム情報学研究科	教授	坪倉 誠	
25	大学院医学研究科	教授	村上 卓道	
26	未来医工学研究開発センター	教授	村垣 善浩	
27	大学院理学研究科	教授	石崎 公庸	
28	大学院工学研究科	教授	浅野 等	
29	大学院科学技術イノベーション研究科	特命教授	片岡 洋祐	
30	大学院医学研究科	特命教授	高井 義美	
31	数理・データサイエンスセンター	教授	木村 建次郎	
32	大学院工学研究科	教授	丸山 達生	
33	大学院医学研究科	教授	榎本 秀樹	
34	大学院医学研究科	教授	久保 亮治	
35	大学院医学研究科	教授	野津 寛大	
36	大学院医学研究科附属感染症センター	准教授	有井 潤	
37	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	川口 博	
38	大学院医学研究科	教授	小川 涉	
39	大学院理学研究科	教授	谷口 隆晴	
40	大学院科学技術イノベーション研究科	特命教授	川真田 伸	
41	大学院システム情報学研究科	教授	貝原 俊也	
42	大学院工学研究科	教授	南 秀人	
43	大学院人文学研究科	准教授	柳澤 邦昭	
44	大学院医学研究科	教授	仁田 亮	
45	医学部附属病院	特命准教授	小西 明英	

No.	所属	職名	氏名	備考
46	大学院工学研究科	教授	寺田 努	
47	水素・未来エネルギー技術研究センター	教授	武田 実	
48	計算社会科学研究センター	教授	上東 貴志	
49	バリュースクール	准教授	鶴田 宏樹	
50	大学院医学研究科	教授	福本 巧	
51	大学院科学技術イノベーション研究科	特命教授	辻野 義雄	
52	大学院医学研究科	特命教授	今井 俊夫	
53	分子フォトサイエンス研究センター	教授	立川 貴士	
54	DX・情報統括本部	教授	藤井 信忠	
55	大学院工学研究科	准教授	田中 勉	
56	先端膜工学研究センター	教授	吉岡 朋久	
57	大学院工学研究科	准教授	杉本 泰	
58	大学院海事科学研究科	教授	大澤 輝夫	
60	大学院科学技術イノベーション研究科	准教授	中川 敬三	
59	大学院医学研究科	特命准教授	亭島 淳	
61	大学院人間発達環境学研究科	教授	源 利文	
62	大学院人間発達環境学研究科	教授	井上 真理	
63	大学院科学技術イノベーション研究科	准教授	和泉 慎太郎	
64	大学院工学研究科	特命教授	森井 昌克	
65	大学院理学研究科	教授	荒川 政彦	
66	先端バイオ工学研究センター	教授	西田 敬二	
67	大学院工学研究科	准教授	大森 敏明	
68	大学院医学研究科	教授	鈴木 聡	
69	先端膜工学研究センター	教授	森 敦紀	
70	大学院農学研究科	助教	京極 博久	
71	大学院農学研究科	准教授	藤本 龍	
72	大学院理学研究科	准教授	身内 賢太郎	
73	大学院理学研究科	准教授	辻 かおる	
74	大学院工学研究科	教授	阪上 隆英	
75	大学院工学研究科	教授	小野 倫也	
76	大学院工学研究科	准教授	瀬谷 創	
77	大学院工学研究科	講師	南本 大穂	
78	大学院医学研究科	教授	青井 貴之	
79	大学院医学研究科	特命教授	藤岡 一路	
80	大学院保健学研究科	教授	松井 三明	
81	分子フォトサイエンス研究センター	教授	小堀 康博	
82	数理・データサイエンスセンター	教授	小澤 誠一	
83	ウェルビーイング先端研究センター	教授	片桐 恵子	

※のは財務貢献者の代表として表彰式に出席